

環境保全型農業を目指す

# 自然と農業

No.84

季刊

2017/2

創刊平成8年

環境保全型農業

交付金は前年同

24億1,000万円

Eco-Agriculture Magazine  
“The Environment and Agriculture”

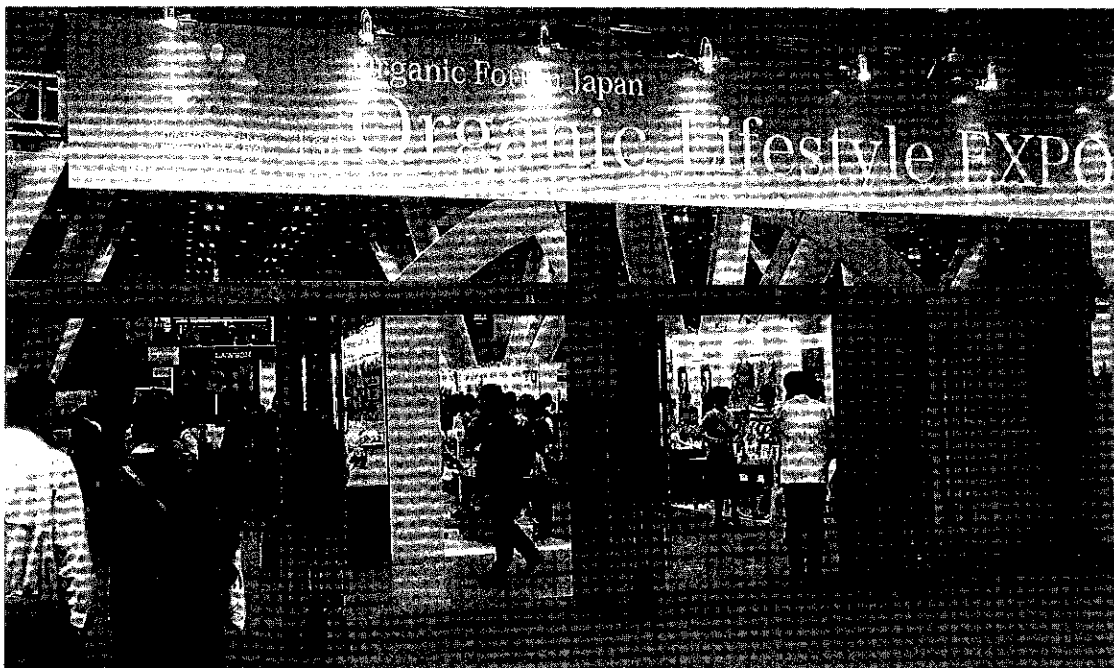


2016年12月8日、東京・上野恩賜公園で開かれた「ハッピー・オーガニック・シンポジウムVol.01」

- 対談・なぜ有機農産物が拡がらないのか 前編 普及指導員 田中康太 大阪商業大学専任講師 中塚華奈
- 地方の現場から② みかんの産地 有田だより
- 2017年1月発効 FDAによるアメリカでの抗生物質の畜産への使用規制について／新しいものに飛びつけ：ペットフードが人の食品に近づく
- オーガニックコラム⑩ 有機スプラウトよもやま話
- 生産者を訪ねて 和歌山県橋本市 ゆの里ファームのみなさん
- 消費者との接点・小売りはこう見る 東京都品川区 レンドフルフ
- Think about organic movements  
無農薬・有機栽培の霧島製茶、アメリカ市場開拓を目指す／アメリカ 化学物質の警告表示の改正内容を弁護士が紹介／アメリカ 輸入加工食品に国際認証が必須に／インドネシア  
残留農薬規則、施行後2年の状況／香港 新たなGMトウモロコシの市場流通を認可／EU



木香書房  
1924年(大正13年)創立



## 第1回オーガニックライフスタイルEXPO開催 193社・団体・生産者が出展し、約20,000人が来場

十一月十八日～十九日の二日間、東京都千代田区の東京国際フォーラムで「第一回 Organic Forum Japan オーガニックライフスタイルEXPO」(主催(株)オーガニックフォーラムジャパン)が開催された。

十八日のオープニングセレモニーでは、オーガニックフォーラムジャパンの徳江倫明会長が「オーガニックは日本ではまだまだだが、大きく成長する兆しがあり、この機会に開催できたのも皆さまのおかげ。開催中は販売もして頂き、来場者にはおいしさを体感して頂きたい。アジア各国、ヨーロッパ、アメリカから講演者を招き、お子さま・奥さま・事業者向けのセミナーを開催する。日本にオーガニックの世界が広がるその原点を、皆さまと共有していきたい」と挨拶した。

続いて農林水産省生産局でオーガニックを担当する河内幸男農業環境対策課長が、齋藤健副大臣の祝辞を代読し、「有機は農地全体の僅か〇・五%。第一



オープニングセレモニーで挨拶する徳江倫明会長

回となる今回は有機農産物の調理方法、医療、アニマルウェルフェア等広い分野で持続可能な取組みが紹介される。このように民間の方々を中心に開催されることで、消費者にオーガニックが広まることを願う」と読み上げた。

さらに、木更津市の渡辺芳邦市長が、「今回木更津市は主催者に名を連ねている(後援)。第一回の開催を機に本当の意味での豊かさがあふれる日本に繋がれば」と挨拶した後、八名によるテープカットが執り行われ



出展者には若い世代も目立った



商品は割高でも次々と売れていく



幕を開けた。オーガニックライフスタイル EXPOは、オーガニックに携わる各分野の第一人者が集まり、消費者との交流や提案を行うことを目的として開催。出展業種は、有機JAS認証・有機農産物・自然栽培農産物・加工食品・輸入食品他、農園・家庭菜園・ガーデニング／ベビー・キッズ・ペット・飼育関連他、オーガニックコットン・エシカルファッション・アパレル等多岐に上り、メイン会場となる屋

内ホールと生産者マルシェが開催された地上広場を合わせて一九三社・団体・生産者、一八〇小間が出展。開催期間中は、メイン会場内のステージやセミナールーム、キッチン等を使い、オーガニックに関わるトークセッション・パフォーマンス・ショー・セミナーも行われ、立ち見やキャンセル待ちも出た。全国各地から生産者が集まったマルシェでは、都心にもかかわらず、多くの人を通りがかりに新鮮な野菜

や果物を買って求めていた。来場者数は二日間で二万九、七九〇人に上り、十九日の午後にはあちこちで商品が売り切れて残念がる声も聞かれる等、会場は両日共来場者でにぎわった。次回、第二回オーガニックライフスタイルEXPOは、二〇一七年七月二十九日～三十日に、今回と同じ東京国際フォーラムで規模を約二倍に拡大しての開催を予定しており、三月十五日(水)まで出展エントリを受け付けている。

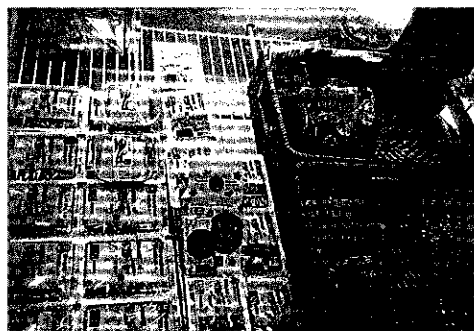
(左上) 伝統的農法による有機栽培で生産した、さまざまな色や形、用途等の特徴を持つ大根・ニンジンが並んだ「モアーク食材開発株式会社」

(左) 「南鹿北製油」の、有機ごま・なたね・えごま・椿等の食用油およびごま製品。なたね油は、国内初の有機JAS認定取得国産なたね油





地域を盛り上げようと異業種が交流し土作りから有機ブランドを作った「鳥のオーガニック」



有機 JAS 認定原料を使用した「関ヤマキ」の豆腐、漬物、甘酒。甘酒「ときめく粧」は完売していた



「AWFC ジャパン」と、「らでいっしゅぼーや」はアニマルウェルフェア畜産を紹介。「AWFC ジャパン」は国内初の AW 畜産コミュニティ



(株)ライフコーポレーションが新業態のスーパーマーケットとしてオープンした「BIO-RAL (ビオラル)」

JAS 有機畜産物 鶏肉認定第 1 号

# オーガニック・チキン

(N60921J09)

を安定供給しています。

生産本部(旧有)共栄ファーム)

茨城県桜川市水戸210 (〒309-1455)

TEL 0296 (78) 1129

FAX 0296 (75) 1115

真壁工場(旧有)ジーシーフーズ)

茨城県桜川市真壁町下谷貝144-1

TEL 0296 (55) 1511

FAX 0296 (54) 1213

岩瀬工場(旧有)茨城内外食品(食鳥処理工場))

茨城県桜川市水戸210

TEL 0296 (75) 4151

FAX 0296 (75) 4168

内外食品(株)

千葉県船橋市高瀬町21-1 (〒273-0014)

TEL 047(432)0671



自然の息吹の中で育った鶏